

成田市教育委員会会議事録

令和4年4月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和4年4月26日 開会：午後4時 閉会：午後4時55分

会 場 成田市役所6階中会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦
委 員	日 暮 美智子

出席職員

教育部長	堀 越 正 宏
教育部担当次長	小 川 雅 彦
教育総務課長	伊 藤 真理子
学校施設課長	越 川 房 邦
学務課長	林 英 樹
教育指導課長	廣 田 一 利
生涯学習課長	野 村 貴 子
学校給食センター所長	鈴 木 孝
公民館長	大 隅 光 夫
図書館長	卷 嶋 菊 江
教育総務課長補佐 (書記)	加 藤 剛

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 片岡委員、日暮委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○3月28日 令和3年度末成田市教職員辞令伝達式について

昨年度末の市内教職員辞令伝達式は、コロナ禍ということで前年度に引き続き、各学校の校長の出席は要請せず、退職者、市内昇任者、新規採用者の方々に市役所大会議室に集まっていただけ、辞令を伝達いたしました。純退職者については一人ひとりに辞令を伝達し、他の皆さんには代表者のみの辞令伝達となりましたが、この日は教育委員の皆様全員にご参加いただいておりますので、他には特に報告する内容はございません。

○4月9日 成田市滑河文化財保存展示施設開館式について

文化財保存展示施設の開館式には教育委員の皆様にもご参加いただいておりますが、この文化財保存展示施設は、1階に展示室が1室と多目的室3室の他、多目的トイレや倉庫、収蔵庫などがありますが、2階は全て収蔵庫となっています。ご覧いただけて分かるように大変簡素な造りで必要最小限の改造に留めています。滑河観音に隣接して建設された旧滑河小学校の校舎を改造したのですが、近年は、航空機騒音の関係で学区である西大須賀や四谷地区からの住居移転が予定されるなど、周辺地区の人口減少が続いています。文化財を生かすには、より多くの方の目に触れ、その歴史に思いを馳せていただくことが大切です。ここに行けばこのような貴重な品を見ることができる、といった情報発信を続けていくことが大切ですので今後の活用次第でこの施設の存在価値を高めることができると考えています。

○4月12日 令和4年度施策説明会（校長部門）について

校長部門の施策説明会については教育委員の皆様全員がご出席されておりますので、私から改めて報告する内容はございません。コロナ禍でもあり、校長部門は部長説明だけで終了とするなど、今年度も極力簡素化し、短時間で終了するように努めました。

○4月14日 令和4年度施策説明会（副校長・教頭、事務職員部門）について

校長部門と同様の内容を、副校長・教頭部門の説明会で、また同日の午後からは事務職員部門を開催し、それぞれ担当から説明させていただきました。今回は学校に配置したタブレット端末を活用して、これまでのような紙媒体は配布しない方法で開催いたしましたが、いかがでしたでしょうか。これからはできる限りこうした情報機器を有効に活用して省資源化を図りながら事務の効率化も進めてまいりたいと思います。

その他

○3月22日 行政改革推進本部・幹事会合同会議について

これまでの行政改革推進計画の計画期間が令和3年度で終了し、令和4年度から引き続き計画期間を3年間とする「成田市行政改革推進計画」を策定するための本部会議がありました。計画の基本方針としては、市の第5次行政改革大綱に位置付けられた2つの基本方針、「市民満足度を重視した行政サービスの向上」、いわゆる「質の改革」と、「簡素で効率的・効果的な行政経営」、いわゆる「量の改革」がありますが、これらの推進のために挙げられた各5項目について、具体的な事項を定めるとともに、「DX」いわゆるデジタルトランスフォーメーションの推進も重点事項に加えて新たな行政改革推進計画を策定したところです。

具体的な取組み事項として教育委員会関係では、生涯学習課が担当している、地域ぐるみで学校を支援していくための「地域コーディネーターの配置の拡大」、現在も実施している「放課後子ども教室の充実」が「市民との協働の推進」という分野で、また、「学校施設のバリアフリー化の推進」、「ICT教育の推進」さらに生涯学習関係で「家庭教育支援事業の活性化」、学校給食関係で「アレルギー対応の充実」そして「図書館ホームページのマルチデバイス化」などが「市民サービスの向上」という分野で取り上げられています。

この他、「簡素で効率的・効果的な行政経営」の分野では、「就学援助制度における学校事務の負担軽減」について「事務事業の見直し」ということで取り上げられています。他にも「学校給食費の滞納対策の推進」や「小中学校太陽光発電の導入」、「学校給食センター本所の再整備」、「公民館の個別施設計画の策定」なども計画に位置付けられました。

この他にも計画的に実施してほしい事業もあるのですが、市全体の事業として見ると、ボリュームが大きくなり過ぎて全てを計画に組み入れるのはなかなか困難であると思われます。

○3月22日 栄養士との意見交換会について

今回もアレルギー対応が中心の意見交換会となりました。市内の栄養士さんたちの慎重さは理解できますが、「とにかくやってみよう」という意欲が前面に出てこないのは、残念です。確かに安全上の配慮は大切ですが、ネガティブな面ばかりを強調し、こうすればできるのではないかと、といった前向きな意見を言い出せない雰囲気も感じられます。思い切って実施に踏み切れない理由の一つとして、「専任の栄養士をつけなければ確実に安心とは言えない」という意見がありましたので、調理委託する際に委託業者に栄養士の配置もしてもらっているのですが、この栄養士さんについて、どのような働きを期待するのか、調理現場でまだ十分な理解がなされていないのではないかと思います。それでも何回かの議論を経て、2学期からは卵の除去食を始めるといふことで、各調理場との調整を図っているところです。アレルギー対応の手順、マニュアルの整備、学校の協力、保護者への周知等々、は必須の条件となりますので、皆さんで力を合わせて早急に取り組んでほしいと願っています。

○3月28日 令和3年度末辞令交付式について

県の辞令交付式についても、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、多古町の「多古コミュニティープラザ文化ホール」において、印旛地区の退職者のうち、定年及び永年勤続により、県教委からの感謝状贈呈の対象となった退職者のみ出席し、辞令交付が行われました。

数十年にわたり、教育一筋に生きてきた教職員への退職辞令と感謝状でしたが、県教委のコロナ感染防止対策ということで、それぞれ代表者の方一人にのみ手渡しし、事務所長の挨拶一つで式典を終えました。せめて退職辞令は一人ひとりに渡し、その際に所長からもねぎらいの言葉をかけていただきたかった、というのが私の感想です。

○3月29日 成田商工会議所創立30周年記念講演会・祝賀会について

成田ビューホテルを会場に、成田商工会議所30周年記念行事が行われました。私はこの記念行事の内、記念講演会にのみ出席させていただき、元警視庁警視総監、高橋清孝氏のご講演を拝聴いたしました。

高橋氏は富里市出身で小泉市長とは成田高校で同級生だったということでした。高校卒業後、東京大学法学部で学び、1980年に警視庁に入庁した後、鹿児島、宮城、大阪、沖縄、埼玉等の県警本部に勤務し、2002年に沖縄県警察本部長に就任。2004年には警察庁警備課長、2007年には北海道警察本部長に就任し、北海道洞爺湖サミットへの対応。2009年

に内閣官房危機管理審議官に着任し、在任中に東日本大震災に対応。2013年には警察庁警備局長、そして2015年に第92代警視總監に就任。翌2016年には内閣危機管理官として3年間我が国の危機管理部門の最高責任者として活躍された方です。

ご自身の経歴からもわかるように役職在任中に日本国中を揺るがす様々な危機に対応したご経験から、「日本の治安と危機管理」と題して貴重なお話を伺うことができました。たくさんお話を伺ったのですが、ここでは「危機事案対処上の留意点」として挙げられた8点について報告します。これは、危機管理責任者としての留意点です。

- 1点目は、覚悟を決めるということ。逃げるな、やるしかないという覚悟です。
 - 2点目は、最悪の事態を想定して大きく構えることが必要だということ。
 - 3点目は、全体像を把握し、事態の進展を予測すること。
 - 4点目は、発生直後の状況把握は困難なため、第1報は曖昧という認識を持つこと。
 - 5点目は、優先順位を決定し、リソースを優先活用すること。
 - 6点目は、想定外が当たり前で、予期し得ないことが起きるものと考えてこと。
 - 7点目は、過去の経験にとらわれてはならず、決して同じ事態ではないと心得ること。
 - 8点目が、巧遅よりも拙速。特に意思決定が遅れてはならないということ。
- というようなお話を伺いました。

○3月31日 令和3年度成田市職員退任式について

令和3年度末をもって本市を退職された職員は、教育部の田中参事はじめ、部長級職員6名を含む行政職員が35名。消防職員が2名でした。退任式ではそれぞれの皆様に心を込めて感謝の意を表しましたが、コロナ禍で昨年度に引き続き、送別会もできない状況には、何ともやるせない思いでした。退職された皆様のご健勝をお祈りしたいと思います。

○4月 1日 令和4年度新規採用職員入所式について

今年度は行政職員43名、消防職員3名の計46名が入所しました。このうち教育部には生涯学習課に1名、図書館に司書2名の配置がありました。新たな夢や希望をもって入所された皆様が今後、本市の行政運営の担い手としてたくましく成長できるよう、先輩職員もその後姿を見せられるようにしていかなければなりません。新入職員だけでなく、私を含め全職員が決意を新たにしたところです。

○4月 3日 令和4年度国際福祉医療大学成田キャンパス入学式について

今年度の入学式は、国際医療福祉大学成田病院内にある成田国際ホールで学部、大学院併せて599名の新入学生を迎えて行われました。ここに岡本先生もいらっしゃるので私からこの入学式についてお話しするのは、失礼かと思いますが、感想を一言だけお話ししますと、毎年感じるのですが、入学生代表の挨拶が素晴らしいということです。特に今年の医学部代表は外国人留学生の方でしたが、医学を学ぶという強い思いをストレートに感じる事ができました。これは今年に限ったことではなく、毎年そう感じているもので、私たち日本人も負けてはいられないぞ、という気持ちになりました。

○4月 6日 JAバンク食農教育応援事業による補助教材贈呈式について

ここ数年、JAバンクから食農教育応援事業の一環として、その補助教材「農業と私たちの暮らし」という冊子を頂いています。今年もその補助教材を使用する市内の5年生全員分の冊子と教材用のDVDを贈呈してくださるということで、市長、副市長同席のもと贈呈式が行われました。私たちの食を支える大事な農業については、担い手不足が深刻です。これから育つ子どもたちには農業に対する関心を深めていただくことも大事な教育の一つです。授業で有効に活用させていただきたいと思います。

○4月 8日 印旛地区教育委員会連絡協議会令和4年度第1回定例常任委員会及び
第1回印旛地区教育長会議について

この会議は印旛合同庁舎で開催いたしました。常任委員会では本年度開催予定の印教連定期総会に提案する内容を審議しました。残念ながら、このコロナ禍では今年度も総会後の懇親会が開催できる状況ではなく、今年度も中止させていただくことになりましたが、定期総会については、広い場所で大声を出すわけでもなく、感染対策を講じて実施すれば可能ではないか。それに各市町で教育長始め教育委員の顔ぶれも変わってきているので、紹介も兼ねて実施すべき、との意見により、総会のみ実施することになりました。

次に、引き続き教育長会議を行いました。この日はあいにく所長以下管理課の先生方も都合で出席できず、残念ではありましたが各市町との情報交換の場で、白井市から、避難所となる中学校に飲料水の自動販売機を設置するとの話がありました。これは市と飲料水メーカーとが協力関係を結び、いざという時、避難所になった場合は自動販売機の飲料水を無料で提供するという事で導入を決定したものだそうです。避難所として使われない通常時は、中学生が格安でこの自動販売機を利用することができるという事でした。多少なりともお金がかかるとい

うことで全く問題がないわけではありませんが、デメリットよりもメリットの方が上回るということではなかなか良い取り組みだと思いました。また、印西市から小学校における教科担任制の進行状況は、との話がありましたが、どの市町も現状では小学校専科等、新たな定数の増員が無ければ教科担任制を実施することは困難。という見解でした。「小学校で教科担任制を」と、いうことであれば、それが実施できるような人員配置がなされなければ現場の負担は増すばかりです。理想と現実のギャップを感じます。

○4月14日 令和4年度千葉県都市教育長協議会総会について

県内の各市教育長の集まりである都市教育長協議会の総会が千葉市で行われ、出席してまいりました。これまで、この協議会の会長は印西市が務めておりましたが、この日で任期の3年を終えることになり、次は東金市が担当することになりました。印西市は持ち回りで行っていた関東都市教育長協議会の会長職も務めておりましたので、当該教育長はもちろんのこと、事務局である教育委員会事務局も大変であったかと思えます。しかし、たまたまコロナ禍に突入したこともあって、ほぼ全ての会が中止になってしまいました。それはそれで残念な結果でしたが、私達各地区教育長も、互いに顔を合わせて情報交換する機会が失われてしまいました。たとえ年に数回であっても他市の教育長と意見交換をすることで自分を振り返ることができ、自分たちの市の教育施策も見つめ直すきっかけになっていたのですが、その機会さえも奪われていたこととなります。

○4月16日 成田太鼓祭成田山千年夜舞台について

成田太鼓祭恒例の「成田山千年夜舞台」に招かれ勇壮な太鼓の響きを感じ取ってまいりました。昨年、そして一昨年と新型コロナウイルス感染症の拡大懸念から中止となっていたお祭りが開催され、多くの観客が訪れていました。「千年夜舞台」は、成田山本堂前に観客席を設け、夕刻からライトに照らされた特設のステージで太鼓の響きを披露する催しです。手指の消毒や体温の測定を受け、少し間隔を広げたパイプ椅子に座って演奏を堪能させていただきましたが、久しぶりということもあって、演奏者も観客も一緒になって楽しむことができた舞台でした。演奏は太鼓のプロ集団である「木村優一と太鼓集団大地の会」がメインの舞台でしたが、その前段でいすみ市の和太鼓風ジュニアチームや都立南多摩中等教育学校太鼓部の皆さんの演奏もあり、会場の雰囲気盛り上げてくれました。

○4月19日 令和4年度印旛地区教育委員会連絡協議会定期総会について

3年ぶりに各市町の教育委員さん方と対面での会議が開催できました。9市町の中には欠席された教育委員さんもおられましたが、本市の教育委員の皆様には全員出席していただき、この会の会長も引き続き本市から佐藤委員さんが選出されました。まだまだコロナから完全に解禁されたわけではなく、総会後の意見交換会は中止さざるを得ない状況ではありますが、コロナ禍にあってもまずは第一歩を踏み出した感がありました。

○4月23日 青少年相談員委嘱状交付及び令和4年度成田市青少年相談員連絡協議会総会について

令和4年度の千葉県青少年相談員としての表彰と、第21期の青少年相談員委嘱状の交付、またその後の成田市青少年相談員連絡協議会の総会に出席しました。

今回は、県知事からの感謝状を6名、県環境生活部長からの感謝状を9名の方がお受けにられました。それぞれ、この期に青少年相談員を退く方々です。また、今年度から新たに青少年相談員を委嘱された方及び引き続き委嘱を受けることになった方は、合計で134名おられました。この日は、それぞれ代表の方に感謝状や委嘱状が手渡されました。

青少年相談員の皆様には、中学生対象のオールナイトハイクや小学生対象の綱引き大会などで大変お世話になっております。綱引き大会はコロナの影響もあって2年連続で中止となっておりますが、オールナイトハイクに関しては、コロナ以外にもここ数年、台風などの影響により中止が続くなど、どちらの行事も思うように実施できていない実情があります。どちらも子どもたちにとっては楽しみにしている行事でもあり、また、青少年相談員の皆様にとっても、大変大きな行事で組織をあげて協力しなければ実施が難しい行事でもあります。今年こそ、こうした行事が滞りなく実施できることを願いたいものです。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号から議案第4号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

《これより非公開》

議案第1号 成田市学校評議員の委嘱について

林学務課長：

成田市学校評議員の委嘱についてですが、成田市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則第6条、及び成田市学校評議員に関する規則第4条の規定により、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指して、校長が推薦する方々を教育委員会が学校評議員として委嘱しているところです。本制度は、平成12年度から始めた事業で、これまで学校評議員は、校長の求めに応じて、さまざまな提言やアドバイスを行ってきました。

資料の2ページをご覧ください。規則では、評議員の定数につきましては、各学校5名以内と規定しています。市内には、小学校19校、中学校8校、義務教育学校2校、合計29校あり、今年度も、各学校から5名ずつ、もしくは4名ずつ、合計143名の推薦書が提出されました。4名の学校につきましては、現在も調整をさせていただいているところです。

推薦されている方の年齢構成は、資料の2ページの1番下の表のとおりとなっております。20代から80代まで広範囲にわたっており、最も多いのが50代の50名となっております。

次に、資料の3ページをご覧ください。推薦された方々の男女比は、表2のとおりです。今年度は男性が56.7%、女性が43.3%となっております。昨年度より女性の割合が増えしており、これは、第3次成田市男女共同参画計画 各種審議等の女性登用率目標の35%をこえるものであります。

今年度、新たに31名の方が推薦されました。

表の3 委嘱年数の内訳は、1年目が31名、2年目が49名、3年目が37名、4年目が26名と年数のバランスは整ってきています。

表の4は、推薦されている方々の「主な役職または職種」をまとめたものです。右端の合計数が143名になりますので、今年度の全体数と合致します。

資料の4ページから6ページは、令和4年度成田市学校評議員として学校から推薦された方々を一覧にまとめたものです。経歴の特徴として元PTA等の関係者が多く、全体の約40%を占めております。

《議案第1号に対する質疑》

佐藤委員：昨年申し上げたことですが、60代以上の方が大分多いというところで、各学校でなるべく子育て世代の方がなるようにしている努力はみえるのですけれども、まだまだ高年齢の方が、場合によっては、全部がそういった方で占めている学校もあって、やはり子育て世代の方が過半数を占めて、そこへ年配の人の意見があつたりということが理想だと思います。年配の方だけで固めてしまうと、他人事のような評議員会になってしまったり、昔はこうだったといったような建設的でない意見になってしまう懸念はあります。各学校にやはり子育て世代を中心とした方をなるべく選ぶようお願いしていただけたらと思います。それから、豊住小学校で、おそらく地域の方から5人選んでいるとは思いますが、今は成田市内どこからでも通えるというところで、一人くらいは地域でない方で、お子さんを通わせている保護者なりをお願いすれば、また違った意見が出てくるのかなと思いました。

林学務課長：学校の方にも助言してまいりたいと思います。

片岡委員：昨年度まで主人が学校評議員をさせていただいて感じたことなのですが、先ほど佐藤委員がおっしゃっていたように、確かに子育て世代の方たちからの意見を聞きたいと思うのですが、評議員が集まる機会が平日の昼間であつたり、働き盛りの世代の方たちが自営などでない限りなかなか参加できなかつたりするので、なり手がそこで狭まってきてしまうのかなと感じました。

林学務課長：昨年度まで校長をしていた立場といたしましては、子育て世代はどうしてもPTAと被ってしまうところがあります。そこを避けながら、学校や地域を知っている方を見つけるとなると、校長の努力次第ということもありますけれども、なかなか難しいところもあるというところです。また、先ほど片岡委員がおっしゃいました、平日開催というところですが、やはり学校を公開したいという思いがありますので、授業を見ていただける平日に開催するようになります。今はオンライン授業などもあり、工夫できるところもあると思いますので、学校の方には助言していきたいと考えております。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第1号「成田市学校評議員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第2号 令和4年度教科用図書印旛採択地区協議会委員の選出について

《審議結果》

承認

議案第3号 令和4年度教科用図書印旛採択地区協議会専門調査員会調査員候補者の推薦について

《審議結果》

承認

議案第4号 成田市学区審議会委員の委嘱について

林学務課長：

教職員の人事異動により成田市学区審議会委員の10名のうち第1号委員1名の欠員が生じたため、成田市学区審議会設置条例第2条第2項の規定により、次のとおり委嘱するものです。

第1号委員の公立学校長につきまして、成田市立神宮寺小学校 内田淳校長を委員として委嘱いたします。

なお、任期については同条例第3条の規定により、前任者の残任期間である令和5年6月30日までとなります。

《議案第4号に対する質疑》

特になし

関川教育長：特にないようですので、議案第4号「成田市学区審議会委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

《非公開を解く》

(2) 報告事項

報告第1号 成田市生涯学習推進協議会委員の職を解くについて

野村生涯学習課長：

報告第1号 成田市生涯学習推進協議会委員の職を解くについてご説明いたします。

令和3年12月の教育委員会会議定例会でご説明させていただきましたとおり、市では、スポーツ基本法第31条の規定により、スポーツの推進に関する重要事項を調査審議するため、成田市生涯学習推進協議会に置く生涯スポーツ推進部会を独立し、本年度から附属機関として成田市スポーツ推進審議会を設置するため、新たに「成田市スポーツ推進審議会設置条例」を制定し、本年4月1日に施行されました。

つきましては、同協議会の部会員に指名されていた委員を同審議会の委員として委嘱するため、成田市辞令式に関する規定に基づき、資料に記載されております同協議会の委員の職を令和4年3月31日付けで解いたことから、報告いたします。

《報告第1号に対する質疑》

特になし

報告第2号 成田市青少年相談員の委嘱について

野村生涯学習課長：

報告第2号 成田市青少年相談員の委嘱について報告させていただきます。

令和4年3月31日をもちまして第20期の青少年相談員134名の任期が満了となり、千葉県青少年相談員設置要綱第7条の規定に基づき、添付しております参考資料のとおり、134名が第21期千葉県青少年相談員として千葉県から委嘱を受けました。

同要綱第10条では、「相談員がその地域にあつて、市町村と緊密なる連携を保持しつつ行動を行うため、この相談員に対し市町村長も委嘱するよう奨励する。」とされておりますことから、本市より同じ方を第21期成田市青少年相談員に委嘱したものです。

青少年相談員は、統廃合した旧小学校も含めた31の学区ごとに活動し、任期は3年間で、令和7年3月31日までとなります。

選出の流れとしましては、委嘱の前年度中に、各地域の区長・自治会長と第20期相談員との協議により候補者を選出し、市から千葉県へ推薦し、承認されたものです。

《報告第2号に対する質疑》

佐藤委員：活動区域が小学校区ということで、大栄地区と下総地区の場合、義務教育学校へ統合がありましたが、旧小学校区のままの区分けと、定員数もそのまま来ていますが、活動する場合は学校単位というふうになると思います。ひとつの学校に対して、青少年相談員の数が多すぎてしまうのではないかと。地理的な範囲でみるとばらつくのですが、実際の活動や会議を学校単位で行うとしたら、身動きがとりにくくなってしまっているのではないのでしょうか。アンバランスな感じがします。下総みどり学園で10名、大栄みらい学園で10名くらいでもいいのではと感じます。実際に地域に子どもの数が少なくなっており、場合によっては、大栄地区よりもっと大きな小学校区でもそのままの定員になっており、子どもの数に対して何人くらいということでも良いかと思えます。

野村生涯学習課長：学校単位で考えると確かに多いというところがありますので、次回の委嘱にあたり、しっかり調べて、県にも協議してまいりたいと考えます。

日暮委員：先ほどの学校評議員の中に青少年相談員の方が入っていて、今回は青少年相談員の方は年齢的に任期切れだったと思いますが、佐藤委員もおっしゃっていたような、年齢的に広範囲に学校評議員になっていただくことを考えると、青少年相談員などを学校とうまくつなげて、そういう方を本来の趣旨から言っても青少年の健全育成ということで、学校評議員に入っただけであれば良いと思いました。

片岡委員：どこの団体も高年齢化してきていて、活動の仕方もだんだん固定化してきていたり、青少年相談員を何年もやられてきているという方もいらっしゃるのでは、その辺を改善できたら良いと感じています。

岡本委員：公津の杜小学校などは子どもの数は多いと思うので、青少年を相手に相談する人と捉えると、子どもの数に合わせた方が良いという気はします。手厚い地域と手薄な地域があるので、数はどこかの段階で変えてもいいのではないかと思います。

片岡委員：岡本委員がおっしゃっていたような気軽に相談できるというところでは、今の青少年相談員は、そういった役割ではないように思われますが、学校によって違うのでしょうか。青少年相談員に子どもたちが気軽に相談に行くかという疑問に思います。

関川教育長：3ページの千葉県青少年相談員設置要綱の「3. 任務」にアからカまでございますが、おっしゃられた「青少年の相談に応じ、助言指導に当たる」という部分は、どちらかというと現在あまりなされていない状況です。スポーツ、野外活動等を通じた体験学習等の促進であるとか、健全育成に関しての活動が主になっています。相談までできるような方がいらっしゃれば良いのですが、なかなかそこまでの人材を求めることが難しい状況です。

6. その他

その他「スクール・コンサートについて」

廣田教育指導課長：

お手元に本年度のスクール・コンサートについて、案内状をお配りさせていただきました。

市制30周年を記念して始められた事業で、毎年市内児童の情操教育に資する取組であるとの高評価をいただいております。

今年度の変更点としては、実施時期が11月から6月に変更しております。

これは、今年7月から来年5月までの間、会場である国際文化会館の改修工事が予定されていることによるものです。

コロナの感染防止に努めるため、今年度も公演を3部制として計画しています。

お忙しいとは存じますが、ご都合がございましたら委員の皆様にもご鑑賞願えればと思います。

詳しくは案内文書をご覧ください。

《質疑》

特になし

7. 教育長閉会宣言